



学生が考える！

Vol.7

都留市の企業×SDGsの未来



カヌー作りを通して豊かな森の循環を守る



問合先 企画課 企画担当

SDGsに取り組んでいる市内企業を都留文科大学学生が実際に訪問・取材し、皆さんに紹介！第7弾はカヌー工房とロッジを運営しながら「森と水と人をつなぐ」活動を行っている、鹿留カヌー工房に学生が迫ります。



1.カヌーを森と人の懸け橋に

鹿留カヌー工房は、間伐材を利用したカヌー製作や木工体験、宿泊ロッジを運営しています。森の中の工房やロッジで実際に自然を楽しむことを通して、森や水に関心を持ってもらう機会を提供しています。

鹿留カヌー工房の山田さんは「森林を共に守る（整備する）人を増やすきっかけ作り」として工房を始めたそうです。「人工林は人の手を加え続けることが大事。適切に間伐し、間隔を空けることで残った木が太く成長し土砂崩れを防ぐ。また、日光が入る隙間を作ることで下草が生え、生物多様性にも寄与する。工房やロッジに来て森に触れた人が環境保護へ興味を持ち、一緒に森の守り人になってくれると嬉しい。」と話されていました。



▲森を案内してくれる山田さん。森が豊かだと川も空気も綺麗になり、良い自然の循環が生まれる。



▲工房では大人だけでなく、森林教育の場として県内外の小学生も受け入れており、森林ツアーや自作の紙芝居で森の素晴らしさと現状の課題を伝えている。



2.地域経済に貢献し、未来のまちづくりを考える

カヌー製作を行うためには約40日間工房に通う必要があるため、一度きりの観光にとどまらない交流（関係）人口を生み出しています。また、工房の薪ストーブに使用する間伐材を南都留森林組合から購入したり、ロッジの清掃を地元業者に依頼したりし、地域経済にも貢献。都留文科大学学生と観光事業者からなる「都留の観光を考える会」にも参加し、持続可能なまちづくりに取り組まれています。

学生からの一言

「まずは楽しんでもらって森好きの仲間を増やしたい。最初から環境保護だけを訴えても人は集まらない。」という考えに共感しました。サウナカー体験の後に入れる川がとても綺麗で、自然の素晴らしさを実際に感じたあと、管理が行き届きづらい森林の現状を知り、自然環境を守るために自分たちができることは何か、考えるきっかけになりました。自然に囲まれた都留で生活している私たちが森の課題を理解することの重要性を感じました。

取材者 都留文科大学学生 渡辺 さやか、平松 敬汰郎



取材先：鹿留カヌー工房
(都留市鹿留3064)
山田 恭嗣

鹿留カヌー工房の
HPはこちらから ▶



鹿留カヌー工房の SDGsのポイント



8.働きがいも経済成長も

都留の自然を観光資源に活かした持続可能な経済活動



13.気候変動に具体的な対策を

健康な森を作り、二酸化炭素削減と自然災害削減に貢献



15.陸の豊かさを守ろう

間伐材を活用し、森の健全な循環を促す

都留市ではSDGs宣言事業所を
募集しています。

「都留市SDGs宣言事業について」市HP ▶

取材協力：地域活性化起業人

宮川清希(㈱ニコン日総プライム)

